



病院NEWS

no.
346
2013
04/01



The Hospital News.Faculty of Medicine Kagawa University



ささえる、つながる、リードする。
香川大学医学部附属病院
KAGAWA UNIVERSITY HOSPITAL

香川県木田郡三木町池戸1750-1 発行人/病院長 千田 彰一

病院長からのご挨拶



香川大学医学部附属病院長 千田 彰一

本院は、昭和58年10月に香川医科大学医学部附属病院として開院し、今秋30周年を迎えます。“ライジング香川大学”を合言葉に躍進を期す大学の一翼を担い、「ささえる、つながる、リードする。」とのキャッチフレーズのもと、地域や社会のニーズに対応して名実共に県民に貢献する大学病院であるよう努めます。良質な専門医療人を育成して地域に提供することと、地域医療における中核的医療機関として高度医療を実践することが課せられた任務と心得ます。

病院再開発の進展

昨年からの病院の再開発事業が始まっていて、新しい病棟建設工事に伴う騒音や振動のため、入院患者さんなどにご迷惑をおかけしています。また狭隘で事故リスクの高い駐車場を改善するため、立体駐車場を含む拡充工事を進めており、6月以降ゲート設置による学院内入構有料化を実施します。患者さんの受診には十分配慮した運用体系をとりますので、ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

病院再開発は、県民の皆様からのご意見をもとに、高次急性期医療の整備・充実、地域医療ネットワークの充実・拠点化、先進医療実施環境の充実・強化などの基本理念のもと第1期工事を進めています。患者さんを癒し、患者さんに信頼される地域社会の中核となる高品質の診療・教育・研究の場を目指すことに加え、防災機能の充実・強化を図るなど、10年20年先を見据えた構想です。本院は三木町の高台にあって水災害には強いと思われ、その利点を活かして香川はもとより四国の災害対策中核拠点を目指します。ただ、台地であるために敷地面積に制約があり新設医科大学中でも最狭面積での活動を余儀なくされています。そこで、災害時でも診療の継続を可能にする手術棟の増築を計画しており、大学病院に期待される高難度手術に対応できるよう画像診断装置や内視鏡手技、ロボット手術が可能なハイブリッド手術室の設置を目指します。また、低侵襲外科、日帰り手術に対応した施設も設ける予定です。昨年度来の補正予算や県などの支援を得て、最新の検査機器と内視鏡やカテーテル、高機能の放射線診断・治療装置が先行導入される見込みです。さらに診療領域単位の専門診療が行えるような病棟配置を計画中で、チームによる高度先進医療の実践を可能にしたいと考えています。

人材育成の基盤整備

本院には、今年も多く多くの若々しい人たちが就職してくれました。地方大学としては、比較的多くの研修医を受け入れていると自負していますが、今後はさらに卒前卒後臨床研修そして後期専門研修をシームレスに進めてキャリアアップを図れるよう総合臨床教育研修支援部を設けて指導体制の整備・充実を図り、高度医療技術トレーニングセンターにおいて、どの世代人であっても診療技術の向上が生涯可能なよう基盤整備への投資を継続します。また多様な事務作業等に対応し、様々な医療支援スタッフを配して医師や看護師など有資格医療職の激務緩和を図り、大学病院としての教育・研究機能を向上させます。患者と医療者に優しい環境整備が、今後の再開発につなげる喫緊の課題と認識しています。

地域医療連携の促進

IT、ネットワークの活用により、院内の職種間連携はもとより、地域医療機関との連携をより一層密にかつ活発化させ、その上で各医療機関の機能・役割分担を進めたいと思います。関連医療機関からのご紹介患者さんを、確実に診療していく体制を構築して行きますので、皆様にはかかりつけの医療機関をお持ち頂くようお願いいたします。その連携の下に大学病院をうまくご利用頂き、私どもが最も有効に機能するようにして頂ければ幸いです。これまで以上に、県の地域医療再生計画事業の中核を担うべく、安心・安全で高度な医療を提供できる優れた医療人の教育養成機関として、地域に根付いた活動を続けて参りますので、今後ともご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

総合診療科紹介

総合診療科 病院准教授 舛形 尚

医療現場では高い専門性が求められており、医学部附属病院もこのニーズに対応すべく内科は専門診療科に細分されています。一方で一般内科の専門家の必要性も叫ばれ、その役割を担うべき総合診療医の存在も期待されています。平成24年7月に「総合診療医の専門性」が厚生労働省で取り上げられ基幹18学会（内科、外科、小児科など）に加えて19番目の

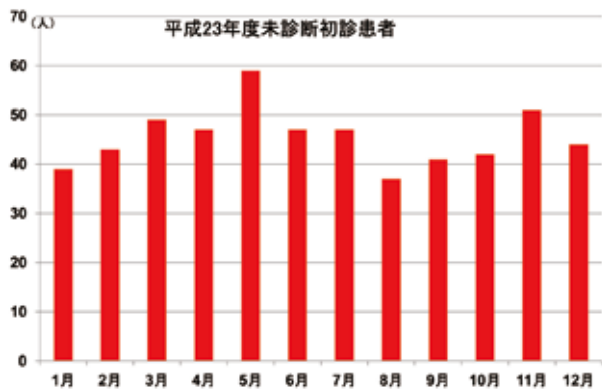


専門医として「総合診療医」が位置づけられました。医学部附属病院で当科の果たすべき役割は病院の入口機能として新患者を総合的に診るだけでなく、地域医療機関との間に緊密な医療連携を形成して病院の出口機能として地域医療機関へ適切な紹介を行うことと考えています。総合診療部は、昭和60年4月に創設され、平成元年6月に訓令施設となり、平成元年12月に教官6名（教授1、助教授1、講師2、助手2）が配属されました。初代教授は小児外科を専門にされていた戸谷拓二先生が就任され、平成9年7月に第二代教授として千田彰一先生が就任し、本年1月から「総合診療科」となっています。

外来診療

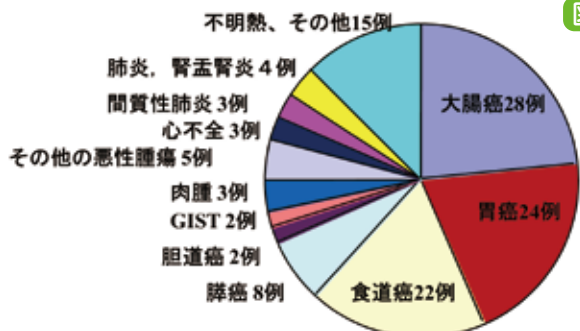
図1

当科では、症状からはすぐに受診すべき診療科が決まらない患者、どの診療科を受診すればよいかわからない患者、発熱などのように症状が全身にわたる患者、高齢者のように問題となる疾患を複数有する患者の未診断初診外来診療を行っています。このような初診患者は、平成23年度は558名（うち地域医療機関からの紹介状を持つ患者が66名（12%））であり（図1）、主訴は1）発熱・不明熱、2）全身倦怠感・体重減少、3）浮腫、4）関節痛、5）失神、6）嘔吐・下痢・便秘・便の異常、7）腫瘍・しこり、8）頭痛・頭の異常感、9）胸痛・息切れ・動悸、10）腹痛、11）腰痛、12）四肢痛・冷感・しびれ、13）めまい、14）咳・痰、15）検診結果異常・その他、です。時に重症の救急疾患が含まれていることもあり、各専門診療科との連携を大切にしながら診療にあたっています。不明熱を含む重症の発熱疾患の場合、即座には専門診療科が決定できないため当科で入院加療を行い、当科での入院中に診断が確定する場合があります。また、内科以外の院内専門診療科から一般内科的診察が必要と判断された患者の紹介を受けることもあります。患者さんには教育病院であることにご理解をいただき、医療面接・診断学教育のために医学部3年生の課題実習、5年生の診療参加型実習にご協力をいただいています。当科へのローテート研修医は、外来診療に出て医療面接、身体診察、超音波検査などを担当して、指導医とともに未診断患者の診療担当を行っています。また、当科では胃癌、大腸癌、食道癌といった消化器癌の化学療法も積極的に取り組んでいます。急性期病院から回復期そして在宅への病診連携促進のモデルとして、地域連携室と協働のもと在宅緩和ケアの導入も行っています。



病棟診療

入院診療では、不明熱のように外来診療だけでは解決困難な患者には入院していただき、精査加療にあたっています。また感染症のようによくある疾患でも、来院時高熱などのため全身状態が不良であるため入院が必要な患者、高齢者のように多臓器にわたる疾患があり全身管理が必要な患者には入院加療を行っています。また、消化器癌に対する化学療法導入や、放射線化学療法など集学的治療に取り組むとともに、新しく開発された抗癌剤の導入および抗癌剤の組み合わせによる治療法の臨床効果を検討する治験も積極的に行っています。癌には高血圧、糖尿病を合併することもあり、また疼痛管理の面から緩和疼痛治療を必要とし、さらには栄養管理の面から経腸栄養などの知識も重要となります。また、癌患者さんの精神的サポート、患者家族の協力を得ながらの治療方針決定、シームレスな病診連携が必要となりますので、包括的医療をめざす当科にとって必須の分野として取り組んでいます。平成23年度の当科入院患者の内訳は消化器癌以外に、発熱を呈する感染症（肺炎、腎盂腎炎、心内膜炎など）、不明熱、心不全などのように入院中に診断が確定された外来紹介患者も含まれています（図2）。



平成23年度入院患者内訳

地域連携と当科の目標

高度先進医療機関・特定機能病院として医学部附属病院は地元の医療機関との間に緊密な地域連携を形成する必要があります。当科では地域連携の窓口として、紹介を受け付けるとともに、診断確定し治療方針が決定した場合や、癌化学療法導入が終了して導入後の癌化学療法の継続を地元医療機関で願う場合など、緊密な連絡を取りながら医学部附属病院から地域医療機関への患者の流れが適切・円滑に行えるよう努力します。CureからCareへの流れの中で、先進医療を探索するとともに、全人的治療を進める大学病院の中核を目指しています。当科における教育の目標は、地域連携に基づく全人的・包括的医療を行う総合的臨床能力を有し、かつ研究思考を持った総合診療医の育成であり、内科を主とした専攻医研修プログラムを用意しています。現在医局員は、循環器や消化器、栄養学、超音波医学などの分野で各自の研究を進めています。日々の診療から問題点を発見し研究を行うリサーチマインドを持った総合診療医・総合内科専門医の育成を目指しています。

知事が学生と一緒に研修体験－第3回意見交換会－

地域医療教育支援センター 大森 浩二

平成25年2月14日に医学部臨床教育開発棟において、第3回香川県知事と医学生の意見交換会が行われました。浜田知事と医学科生11名、初期研修医2名、森望医学部長、田宮隆副病院長、当センター員が出席しました。今回は、スキルスラボ体験など趣向を凝らしたことから、テレビカメラも入り大変盛り上がりしました。前半では、学生ACLS勉強会の取り組み、学生の進路、県の医師偏在対策、交通事故防止対策などについて意見交換が行われました。後半には、知事にも白衣姿で“研修を体験”していただきました。2階の救命ラボでは蘇生シミュレータSimMan3Gの診察、3階では、内視鏡や心エコーの研修、腹腔鏡下胆嚢摘出術などを学生・研修医のアシストで体験されました。この様子は、“知事ブログ”に知事自身が報告されています。このラボの設備は学外からもインターネットで予約利用可能であることも紹介いただきました。香川県には、県内の医師確保施策の一環として、学生定員地域枠、修学生制度、この施設への拠金など、様々な形で香川大学医学部を支援いただいています。この行事は、行政トップの知事が医学生と直に接して、郷土愛を高めるべく対話、交流されるため、県にとっても極めて合目的ですが、一方、香川の地を修学の場に選んだ県内外からの医学生・研修医にとっても大変励みになりました。共催していただいた香川県健康福祉部医務国保課の方々、そして、今回も大活躍してくれた医学科生・研修医の御協力に感謝申し上げます。この企画が香川県の地域医療の充実に少しでも役立てば嬉しく思います。



防災訓練について

管理課庁舎係

去る1月22日(火)の午後1時30分、室戸岬沖を震源としたマグニチュード8(震度7)の南海地震を想定し、約150人の参加者による防災訓練を実施いたしました。

今回の訓練は、アクションカードによる被害状況の把握訓練、地震による出火を想定した避難訓練及び水消火器を使用した消火訓練を行いました。

被害状況の把握訓練は、アクションカードに記載された内容に基づき各部署の被害状況の確認、災害対策本部への情報の伝達及び災害対策本部から初期消火の担当責任者や、患者などの避難誘導を行う担当責任者などの災害時に活動する各担当責任者への情報伝達などの災害時の被害状況の把握、及び指揮命令系統の確立を行う為の訓練を行いました。

避難訓練は、出火場所を西病棟5階に想定し玄関ロビーまで模擬患者の避難誘導を行い、災害時に患者の安全に注意して避難誘導を行う為の訓練を行いました。

消火訓練は、水消火器を使用し、初期消火を効率的に行う為に、仮想の火元に向けて水を噴射する訓練を行いました。

実際の災害時に患者の皆様が不安を覚えないように的確に対応出来るように今後も訓練を欠かさず行いたいと思います。

がん患者サロン特別講演について



がん診療相談支援室

平成25年1月11日(金)午後2時からがん患者サロン特別講演を開催しました。NPO法人健康笑い塾の中井宏次塾長をお招きして、「医笑同源～笑って免疫力アップ」をテーマに講演していただきました。ユーモア溢れる塾長の指導のもと参加者全員で「笑いのヨガ」を実践しました。会場は笑いの渦に巻き込まれ一挙に免疫力が上がったのではないかと感じました。先生から教わった「笑いヨガ実践」は、快ホルモンの発生を促します。豊かで活力ある生活を維持するために試してみても如何でしょうか。<一笑い百災を取り、百笑千福を招き、千笑万病を癒す>のとおり、笑いは百薬の長であり、笑うことで幸せになり、笑うことで幸せを与えられることを教えていただきました。

今後とも有意義な患者サロンになるようにスタッフ一同努力して参りますので、ご参加、ご支援下さいますようお願いいたします。

臨床研究に関するご案内

医学部倫理委員会委員長

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿・血液等の検査試料、生検組織(内視鏡検査で検査のために採取した組織等)又は摘出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究(研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究)に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究(過去の事象について調査する研究)の場合は下記に示しております。

利用目的の中に同意しがたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに対して同意が得られたものとさせていただきます。

掲示終了日	研究課題名	研究責任者(所属・氏名)
H25.04.30	ウイルス性肝疾患に係る各種対策の医療経済評価に関する研究	公衆衛生学 教授 平尾 智広
H26.12.31	非小細胞肺癌・高悪性度腺の予後に関する研究	呼吸器・乳腺内分泌外科 助教 奥田 昌也
H26.12.31	ステロイド早期減量プロトコルの移植後骨粗鬆症への有効性に関する研究	循環器・腎臓・脳卒中内科 病院助教 西岡 聡
H29.03.31	がん治療における口腔合併症の観察研究	歯・顎・口腔外科 助教 大林 由美子

かがわ肝疾患ネットワーク



消化器・神経内科 正木 勉

肝炎対策及び肝疾患治療に関して、香川県の肝疾患診療連携拠点病院に指定されている香川大学医学部附属病院、香川県立中央病院、香川県健康福祉部薬務感染症対策課が中心となり、平成25年3月、最近1年間の県下で取り組んできた肝炎対策に関わる事業をまとめた冊子「かがわ肝疾患ネットワーク」の第2号を刊行しました。

本冊子を手引きに、肝疾患に関する治療や相談業務等に活用していただければ幸いです。

看護職員募集

中途採用者随時募集

助産師・看護師免許を有し、
夜勤が可能な方

お問い合わせ先

087-891-2320(看護管理室)

イベントカレンダー H25.4月～H6月 予定表

日時	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
5/8 水	18:30～20:00	子どもと家族・こころの診療部	発達障害学校・医療連絡協議会	子どもと家族・こころの診療部	(087)891-2420
6/4～6 火～木	(未定)	大阪国際会議場 (グランキューブ大阪)	第28回 日本老年精神医学会 高齢者精神疾患薬物治療新時代	精神科神経科	樹ワールドプランニング 03-5206-7431
6/12 水	18:30～20:00	子どもと家族・こころの診療部	発達障害学校・医療連絡協議会	子どもと家族・こころの診療部	(087)891-2420
(未定)	(未定)	(未定)	がん患者サロン	腫瘍センター	(087)891-2363
(未定)	(未定)	(未定)	NST勉強会	腫瘍センター	(087)891-2054
(未定)	(未定)	(未定)	緩和ケア学習会	腫瘍センター	(087)891-2054

外来駐車場は患者さんのもの!!
駐車ルールを守りましょう!!

編集委員会: 石井(看護), 石川(外来), 岩瀬(病棟), 岡田(総務)
(50音順)
鬼村(医事), 梶川(検査), 加藤(放射線), 白神(麻酔)
芳地(薬剤), 松本(看護), 安友(管理), 横井(情報)
[委員長 千田病院長]